

第4回 岡崎市緑の基本計画策定委員会 議事録

日 時：令和2年6月9日（火） 14時00分～16時00分

場 所：岡崎市役所西庁舎5階503号室

出席者：

【検討委員】

今西委員長、松本副委員長、高取委員（Web会議にて参加）、近藤委員、中川委員、三矢委員

【事務局】

杉山都市整備部長

公園緑地課：横山課長、奥田副課長、河合主任主査、高橋主事

（株）エイト日本技術開発：村山、北畠

議事内容は以下のとおり。

1. 開会

挨拶・資料確認（事務局）

2. 議事

2.1 計画の体系と個別施策について

【説明】

【質疑応答】

今西委員長：

資料1の方ご覧いただきますと左から方向性、基本理念、基本目標と言う事で、前回までに決めた部分になります。本日はその先の基本方針、それから具体的な施策、この辺りのご確認をお願いしたいと言う事でございます。その為の資料が参考資料と言う事で詳細に渡って、現在の基本方針等、今後の基本方針等と比較しながら進めていただいていると思います。どなたからでも結構ですのでご意見ご質問等ございましたらお願いします。

三矢委員：

4点ほどあります。1つ目、基本目標3の方針5、後ろの方です。「公園や緑道を活用したウォーキング」と言う言葉がありまして、ウォーキングって僕の感覚から言うと普通に我が家からいろいろな所を歩いたりが多いかなという感じがします。緑道とか公園の緑に基本フォーカスが当たるのはわかるんですけど、普通の歩道みたいな所は対象にならないのでしょうか。普通の歩道だったり街路樹だったり、そういったところも気にかけてもらえると良いかなと思ったので。ここに公園緑道に指定してある所以外の歩道みたいな概念はありませんか？と言う質問です。これは実際に歩行者・自転車・自動車はどういう風な取り合いか？という事もあるのでもっと大きい話になってしまうか

もしれないですけど。まずこれが一点目です。

2つ目は下の基本目標4の方針1の所で愛護運営会の言葉が出てきまして、こういった取り組みを広げようと活動を私自身関わっているの、これに付随していくと2つ発言したい事があって、1つは、公園愛護運営会というのが以外と紛らわしいというか、通常の公園愛護会というのがあって公園愛護運営会もあって、となるといざ地域に入っていく時に言葉が混同するんですね。愛称とかでもいいので、出来れば愛護運営会をもうちょっと特別のネーミングしてもらえないかなという希望があります。

もう1つは確認なんですけど、前回のこの委員会の中で僕からの問題提起で、愛護運営会を地域に持っていった時に活用するは良いけれども、その公園の現状の不具合、たとえば危険箇所があるだとか老朽化している等があって、活用のソフトの話と一部ハードの改善もセットでやりたいなど。元々市の考えとしては更新は古いものから順番です、みたいな話がある一方、愛護運営会の取り組みが進んでいくという事と少しハード的な事も連続的にやっていけるといいという話が前回の委員会では出たかと思うのですが、あれは今回反映されたのでしょうか?気になったのでその質問です。

3点目、基本目標4の方針2、多様な主体の五番目の所です。「地域の多様なスペースを活用する市民の活用を支援します」という言葉だけ見ると凄い大きな概念というか、いったいこれは何を言っているのかということが気になるのですが、実際には参考資料1の方をよくよく見ていくと、P.7の一番上にありまして備考欄によると多様のオープンスペースの活用、具体的には認定市民緑地等を想定していると書いてあります。この資料1の内容はちょっと一人歩きするとか、概要みたいな感じなので、もうちょっと説明があった方が親切かと思いました。多様なオープンスペースだとか、認定市民緑地と入れても余計わからない。ここがちょっと言葉だけ見ると何を意味しているのか分かりにくいので、若干加筆修正が必要ではないかと思います。

最後もう1点です。一番下の「緑の関心理解の喚起」で、こういった取り組みを伝えた広報手段検討しますという言葉があって、確認したいのですが、他の「進めます」とか「推進します」で書いてあるのに、何故かここだけが検討しますと書いてあるのが急にトーンダウンしているとか、よっぽど難しいという解釈で市は提案しているのか。一方で現場側が頑張ってもらいたいのでやりやすみたいな言葉にならないかな、という心配があります。以上です。

事務局：

基本目標3方針5のウォーキングに関する部分ですが、こちらは参考資料のほうにクアオルト健康ウォーキングに関する記述をしていますが、この施策に関してはここにある程度具体的に絞って考えています。事業としては今丁度進み始めたくらいの所なんですけれども。ご指摘いただいたような街路の快適性とかはまた道路の方で行政として別途やっていく部分と考えています。

三矢委員：

クアオルト健康ウォーキングは緑道とか公園が望ましいということですか。

事務局：

元々は自然の中を歩くという発想が基本のものなんですけど、岡崎市の保健部局の方からは街中で

も公園だとか緑道だとかを利用したコース選定の方も考えている所で、それをピックアップしてやるということになっています。

事務局：

補足させていただきます。これについては全国で何ヵ所かクアオルトが選ばれていまして、今説明しましたように通常は自然の中、言ってみれば山の中のようなところを歩くコースの選定をしているのですが、岡崎市は2ルート選定しようとしています。1つは通常の山の方、もう1つは街中を中心としたウォーキングを選定していこうとなりますので、街中に関しましては公園や緑道がコース設定の中で入ってくる可能性があるのご理解いただけると。街中ルートができると、これは全国でも岡崎市の独自のものになると思います。

三矢委員：

公園と緑道と、あとは一般公道も含めたものをやるわけですね。

事務局：

ルート設定がされますのでつながる場所はあると思います。

今西委員長：

三矢さんが言われたように、公道というのは歩きやすさ快適さ安全性を確保していくんだよという意味も含めて、通常の道路も健康増進に関わっているんだというようなことも書いておいた方が良いでしょう。

三矢委員：

そこが加わると健康ウォーキング頑張っていくぞみたいな言葉がもうちょっと表に出ていいような気がします。緑を活かす系のウォーキングというようなことが今理解できたので、市としてはそこに力をいれようとしている。そこに緑を活用しようということが、もうちょっと説明いただいたほうが岡崎市としての特色が出て良いかと思うんですけど

事務局：

書き方についてはちょっと工夫させていただきます。

今西委員長：

工夫していただけると良いですね。せっかくの緑基本のアクションプランなので。

事務局：

説明せずにわかっていただけるような書き方にできればいいかと思います。

今西委員長：

岡崎市の色が出るのであれば是非きちんと書いていただきたいと思います。

事務局：

公園愛護運営会に関しまして、名前というか愛称の方ですけれども確かにややこしいとは感じています。

三矢委員：

いつも地域の皆さんで言い間違えてしまうんですね。

事務局：

愛護会ならもうやっているけど、みたいな勘違いが出てきてしまう可能性がありますので、三矢さんには今聞かせていただいている中で今後の名称をどうするかについても是非ご協力いただければと思います。

また質問の3番目、活用していく中のハード部分の整備に関してです。確かに今は古い順から公園整備実施していくという流れなんですけど、これも一気にできるものではないので今あるものをどういう形で活用していくかというような所も考えていただきたいという点と、施策としては2-1-1ですが、この施策の名称として「地域の多様な活用ニーズ」というような所を入れております。元々は誰もが使いやすくするという施策だったんですけども、今の愛護運営会の動きも含めて地域で活用していただいている中のニーズも拾えるように、こういった表現に変えております。これによってそういった活動しているところに対して行政としても動きやすくなります。

基本目標4の「地域の対応スペース」という所、ここはもう一度表現は考えさせていただきます。ちょっと漠然としているので、もう少しここも説明無く読み取れるような形で考えたいと思います。

最後質問いただいた広報・情報提供手段検討しますという所です。確かに検討しますというのは弱い気がするんですが、実際今インスタグラムとかアプリのParkful、そういった所を進めてはいるんですが、なかなか確実なものがちょっと出ていない。これが確実ということがあればそれを推進していきますよという事になると思うのですが、どうしてもやってみながら、というようになってしまうのかなと思いますので、色々試してみるという意味で検討しますという表現にした、という面もあります。もしこれがって言うメディアなんかがありましたら逆にご意見いただきたいという所ではありますけれども。そういう意味での検討もちょっと含まれているということです。

今西委員長：

ちょっとまだ施策の詳細が足りない部分があるので、次の段階で文章の中で公開していただけたらと思います。そして最後の検討という言葉、これは私も同感でありまして、事前に見せていただいた時に結構いっぱいあったんですね。検討が。とことん直して下さいって言って指摘したんですけど、最後だけがもれてしまったのですね。本来計画なので検討はありえない、実施するしかないわけですから。

事務局：

こちらの表現は変えさせていただきます。

高取委員：

参考資料 1 の P.1 で耕作放棄地の活用を促進しますという箇所と、市民が農業に親しむ場の整備を進めますという施策があるのですが、例えば最近ですと、耕作放棄地の活用として市民農園にする、都市住民の方が楽しめるような農園として、両方の問題を解決したりするような施策同士の組み合わせを提案するのはどうかという提案、これが 1 点目です。

次に P.5 の方に進みまして、先程三矢さんからもご意見がありましたように、クアオルト健康ウォーキングを打ち出していくということは岡崎市の特色として非常にいいと思うのですが、最近は乙川河川緑地とかも整備されていますので、健康面でいいますとランニングですとかサイクリングなども非常に人気になっていることもある。そういった活動についてもたとえば河川緑地とか、歩行者の危険にならない範囲で入れていくのはどうかと思ったのが 2 点目です。

次に P.7 の方になりまして施策 4-2-7「花と緑の町づくりに関する支援」という事なのですが、市では花壇コンクールをこれまでやってきたということで非常に特色のある取り組みだと思います。私の今の大学の近く、久留米市の方でもそうした取り組みをされているということで、最近研究でどういった場所に花壇があると人々に認識されやすいかという研究があるのですが、そうするとやっぱりメインとなる道路の交差点部ですとか、割と人が集中しやすい場所にある花壇に一番皆さんの認識が高いということもありまして、そういった場所で花壇コンクールをやってもらおうと、より市民の認識ですとか、さらに作る側の意識も高まるのではないかという事もありまして、場所について検討をしてみたらどうですかというのが 3 点目です。

最後 4 点目なのですが、三矢さんからもご意見ありました基本目標 5 の方針 2 の所、HP の拡充や SNS の導入など市民へ伝えていく手段の検討ですね。これについて重要だと思うのは、より緑地に対して関心がある市民にダイレクトに情報が届くような登録制度、レンジャー制度のようなものを作るのが大事かなと思ひまして、例えば市民が登録すると色々な連絡が届くですとか、もうすでに取組まれているかもしれないですが、漠然と緑に興味がある人が登録すると色々な情報が届いて興味がある所に参加できたり、そういう仕組みがあったら皆さん幅が広がるのでは無いかなと思ひまして、それが 4 点目になります。以上です。

事務局：

1 点目の耕作放棄地を市民農園として活用してはどうかのご意見、こちらは主管の農務課の方に確認をしまして、可能であれば話の方進めていきたいなと思います。

2 点目、河川緑地などのランニングですとかサイクリングといった使い方といった所ですけど、具体的な施策には書いてないんですけども、乙川に関しましては今、自転車の方もある程度の範囲でサイクリングしながら楽しんでいただける所を変更したりして、いろいろな形で使っていただけるような動きは進めております。この辺りの動きをここへどう盛り込むか、どう表現するか考えさせていただきます。

高取委員：

たとえばランナー用のロッカーやシャワールームの設置などを例えば河川の施設に入れたりするとランナー達がスッキリしてくつろげたりするかなと思うのですが、そういうのもやられているのですか？

事務局：

昨年度、ホテルコンベンションで募集した事業者さんがまた新たにそういった施設を造られるといった事と、桜城橋と橋詰広場でも民間事業者さんを募集してきておりますけれども、そういった民間施設を利用した中で河川緑地でランニングをされる方も出てくるのかなという期待はあります。

事務局：

花壇については、駅周辺で実際やっていたり、道路のポケットパークという形でやられている所はあるはあるんですけども、より場所を広げていけるかというところとちょっと難しいかなと、道路の環境緑化という点ではたとえば緑化補助の観点で、たとえば以前は街路樹があったけど今は無くなってしまったところに、地域の方に補助を出して好きに緑化してもらうようなことは考えられないかなというような案はあります。緑化補助制度の見直しについてはほかの部分でも書いていきたいところがあります。

三矢委員：

高取委員の発言の意図をもうちょっと確認するんですけど、僕が聞いた感じでは花壇コンクールの話があって、色々な研究の成果からすると駅だとか交差点だとかの人のクロスポイントに花があることによって、やっている本人らもやる気が出るし、実際に人々への認知も高まるというか「岡崎花が多いや」となるという事なので、そういう花壇コンクールをやるにせよそのフィールドに人がクロスする場所を入れてみたらどうかという話だったのかなと僕は受け止めたのですがそういう事でいいでしょうか。

高取委員：

まさにそういうところです。

三矢委員：

人のクロスポイントになるべき場所を花壇コンクールの対象にしてもらう事があり得るかどうか分からないですけど。

今西委員長：

公園緑地の部局だけで考えるのではなく、緑の基本計画の中で道路も含めて河川も含めてという捉え方で計画する。ですから花壇の活動を道路でも河川でも人が集まるような場所でやってみようというようなことでいいですね。

高取委員：

はい。道路ですとか最近河川沿いですとか取り組まれているクアオルト健康ウォーキングの緑道沿いですとかそこにあったら注目するような場所でやると皆さん意識も高まるのかなと思ったので。是非公園以外の場所も検討いただけたら良いかなと思います。

近藤委員：

今回市民アンケートでは、かなり花と緑のというか花関係のことで需要があるんだなという事は拝見して思ったのですが、この需要をどう埋めていくかと考えた時、公園の役割としては今ある岡崎市の花の需要に対する対応っていうのはどちらかというと個人の家庭で園芸をする場合にその情報だったり、先生なり何か集まって情報が得られるのがやっぱり一番需要が多いのかなと思っています。ガーデニング教室なりの需要がかなり高いのは、各家庭でそれが出来るっていう環境があるからだと思います。

また、そういった活動に市民が参加する理由にも 2 種類あると思います。自分で個人的に楽しむ為の情報を得る為にそういうものに参加する、あるいは情報交換の仲間を作る為に参加する。それ以外に、先程の高取委員の仰った人が来るところでみんなに花の活動を見てもらう。努力した結果をちゃんと皆さんに評価してもらえという動機ですね。家庭では人に見せる機会がなかなか無いので、皆さんに見てもらえる所で花造りがやりたいというニーズです。それに対して公園で何が出来るといって、情報提供の為の園芸の講座だったりというのが今までも色々な形でやられていると思うんですけど、更に花壇コンクールなどについても結構充実をしているなと思います。他を多く知っている訳ではないのですが、実績も有ってかなり充実している方だと思うんですけど、ただその中で都市計画として花の景色を見るという観点に立った時に、素人目線でやるガーデンとか花壇ではなく、たとえばコミュニティガーデンをやられている自治体なんかでは必ずこれをサポートするセミプロのようなプロのような、サポートする側の組織があるんです。ここ場所あるのでやって下さいっていきなり素人が言われても、おそらく何をどう扱って良いのかわからないし花とか種とかあげるからって言われたとしても、そこを綺麗に見せるっていうのはなかなか知らない人にとっては難しい。たとえ個人でかなり色々な事やられていて色々な知識がある方としても、やっぱり素人は素人なので好みに走ってしまう場合もあったりします。それが公共の場所で公共の景観として見られるようにするプロを育成するっていう部分と、一般の方に情報提供の場としての部分が公園で出来ると、景観の花の景色と市民の需要が得られるのかなと思います。結構その辺ちゃんとやっている地域というのは、たとえば九州の方や横浜でも観光地のある所はすごく力を入れて花も含めた景観造りが上手くいっている所もかなりあると思うので、そういう所はどうやっているかっていうのを参考に調べて見るのは良いかなと思います。

高取委員：

福岡もかなり花に関する運動をやっている自治体なんですけど、今近くにある大橋駅という割と大きい駅前に市民のボランティアによって花壇が造られていまして、そこはやっぱりセミプロのような方がしっかりマネジメントされていて責任をもたれボランティアをまとめられたりですとか、近くにある福岡銀行さんも企業の CSR として花壇を作られたりしている。やっぱりセミプロの母体を

しっかり持つというのが一番難しくもあり大事でもあるのかなと思います。いきなり駅前などに素人がってというよりは、そこが出来てから次の段階という事になる。

近藤委員：

マラソンとかウォーキングの整備の件について、景観を良くしたりとか道を良くしたりっていうのは一つ見所を作るのに必要なんですけど、それプラス、ポイントというかここからここが何キロとか何メートルですっていうマイルストーンみたいなものがあるといい。その場所へわざわざ行って走ろうとか歩こうとかっていう目標が出来るので、そうするとわざわざそこに来てマラソンをするような重要も増えるのではないかと思います。提示の仕方というか、緑地があれば良いというよりは、これは走る気になるというかそこに行ってみたいと思わせるきっかけをきちんと付加してあげると良いのかなって思います。

今西委員長：

まさにそのとおりで、公園や緑道を作ったから来てねというだけではダメなんですね。来てもらう為のきっかけをプラスアルファしていかないと誰も使わないよという事です。緑の基本計画においてそのところ今後 10 年の中では取り組んで来ますというのは、これからあっていい気がします。

松本委員：

今のきっかけの話は大事だなって思ったんですけど。施策 4-3-5 に農業講座ってありますよね。市民の方々に市民農園を使ってもらうのに、まず農業体験してもらって作物作るという、この流れで緑や花の育て方を通じて公園を使うきっかけにというのはあると思いますね。

近藤委員：

ガーデニング講座で完結しないようにしないといけない。

松本委員：

生涯学習にも繋がるし高齢者層の生きがいにも繋がって町も綺麗になって素晴らしいアイデアと思います。

他の件も含めてお話させていただきたいと思うのですが、先程の高取さんのおっしゃった耕作放棄地と関連するんですが、岡崎ではいまそれほど課題になってないかも知れないけど空き家問題、空き地問題というのがある。空き家や空き地を緑化して皆さんで使える場所にしようとか、グリーンインフラもあったりもするので、そこを緑基本に位置付けておいても良いのかなという気はしたんです。住宅側の方とも当然協議は必要になると思いますが、緑基本で位置付けておけばひとつの良い方法になっていくのではないかと思いますので、ご検討いただけると良いと思います。

それから街路樹ですね、これがちょっと微妙だなと思っていて、市民アンケートにも相当出て来たという事なので。もうちょっと明確に位置付けて欲しいかなと個人的に思います。色々な意見や視点もあるので難しいと思いますが、緑基本で街路樹をどう位置づけるのかというところが、今の書き方で見ると施策 2-2-1 のなかで公園や街路樹という事で一緒になってしまっている。さらにこ

ここに「生物多様性への配慮を進める」とあって、これはもちろん大事です。街路樹によって生物多様性に対応してっていうのは、それが緑のネットワークになるので確かに重要です。でもそもそも街路樹というのはそれだけではない。例えば防災、ヒートアイランド対策、夏の木陰を提供する、まちの景観シンボリックなどいろいろな面がある。街路樹の位置付け、役割をしっかりと明記した上でどうするか、ただ先程言われていたみたいにある場所は低木緑化にするとかはそれで良いと思っていて、集中する所に関してはしっかりと守っていきますよという意味で街路樹の役割をはっきりさせたうえで書いておくという事が大事です。またプロの関わりという話、これは街路樹もそうですね。プロがしっかりと剪定など維持管理を指導していくことは大事です。是非お願いしたいと思っています。

維持管理はとても大事で、たとえば IT 技術を活用しながら維持管理をコード化していくそういう事もやっていく必要がある。シンガポールでは街路樹全部がデータベースされていて、この木はいつ肥料あげれば良いとか水あげれば良いとか剪定すれば良いとか全部データ化されているというのがある。高取先生にこの辺は伺いたいですが、こういう次の時代に向けた体制を作っておかないといけない。どんどん維持管理費も減っていく中で効率化を進めていかないといけなくなってしまうのです。そこに向けてじゃあどういう形で緑の維持管理や保全が出来るのかというのを公共施設整備と同じくらい見積っていかないといけないのかなと思います。

最後ですが、ものすごく色々な施策出していただいているなどと思いつつ、僕は専門家じゃないので、ぱっと見た時に目移りがするというか結局何なんだろうっていう面もある。施策にレベル感というか、いわゆる重点施策「これとこれ重点だ」みたいなことがあるといいという気がします。

今西委員長：

街路樹に関するものは私も松本さんと一緒にずっと言っています。街路樹は部門の管理が違う、これは公園部局の作る計画だからと言ってそこに関わっていかないといけない。最初から調整調整言っていたらどこも協力してくれません。

中川委員：

これは大人の作る計画だからしょうがないというところはあるんですが、子供の目線の物が非常に無いなという印象があります。どの基本目標も子供も参加出来るし、小学校から高校の間に 1 個ずつ必ずどこかに参加出来るように学校と連携するとかですね。子供を対象とした緑の教育という視点はもっと全体に点在させてもいいのかなと思います。また市民への周知・広報の部分も、私も最初からずっと聞いていてどこにでるのかなと思っていたら一番最後だったので、これも例えば各目標ごとにあっても良いのかなと。基本目標の中に関心理解の喚起項目があって、それぞれのアプローチの仕方が違えば市民の関わり方についても違った目標が立てられると思います。一番最後で理解を喚起しますって言っても広すぎて漠然としていたのでそれぞれの基本目標ごとに入れても良いのではと思いました。

今西委員長：

なかなかこれは気づけない視点なので指摘いただけてありがたいと思います。おっしゃるように

ほぼ 10 年間の計画だと、例えば小学校の子は中学校出て高校出てという中で岡崎で育って関わっていく訳ですから。そういう関係、それぞれどんな所に参加できるのかわかるといいのかな。そういう視点が私達も欠けていたのかなという感じはします。個別の目標ごとに関心をひく事、PR していく事は必要かも知れないですね。例えば緑を守ると言った時にその部分でどういう関心を持ってもらえるか、おっしゃる通り非常にいいと思うので、また事務局で考えていただければと思います。

もう 1 点。「歴史資源と一体となった緑と保全と活用」の部分ですが、これ施策の中では保全しかないんですよ。活用方法が何にも書かれていないこれは保全と活用じゃないだろう、活用ってなんだろうっていうところにまた戻っちゃうんですけど。さきほど県の天然記念物に上位指定というお話がありましたがそれが活用なのかどうか、いずれにしても保全と活用と言いながら活用の部分がさっぱりないよねって言うのがちょっと気になりました。それから後は皆さん色々言っていただいたのでいいかなと思います。色々意見いただきましたので事務局も整理して良いものにしていただけたらと思います。

高取委員：

維持管理について、最近ですと海外でしたらポートランドやニューヨークですと街路樹の 1 本 1 本がデータ化されて今どういう状況にあるとか、公園内の緑がどれくらい育っていてボランティアで誰が管理している所までデータベースされて公開されているようなところもあります。最近技術が進んできていて割と安価なシステムも増えてきていますので、情報収集公開技術も持って皆さんが関わっていける情報の基盤となるようなシステムを持つというのも 1 つこれから緑の基本計画でも可能性があるのかなと思いました。

街路樹については、先程松本先生がおっしゃいましたように今注目されているのが市内で生態系サービスなど、色々な緑が持っている価値、ここでももちろん防災でも書かれているのですが街路樹 1 本にしましても人に対する癒しの効果ですとか色々な機能を持っています。ここについてどのような管理をするという価値が上がっていくのかという研究も出てきています。それで街路樹計画にしても道路に関してはこういう価値を尊重して、こういうような道路にしていきたいと思いますというような明確な街路樹計画といったものを持つという事は市民として誇りに思える部分がある。とても大事なことだと思いますので是非ご検討いただけたらと思っています。

今西委員長：

都市公園法では施設台帳の整備が定められているのですが、街路樹はそういう定めがないんですね。すべての街路樹に対して台帳、データベースを整備して、ピンポイントで形状寸法までわかるようにするというのはやっている自治体はあるし、それに基づいて管理をしていく、そういう力の入れ方をしていくというはあると思います。

三矢委員：

街路樹についてだいぶ夢が膨らんでいるんですけども、今は確かにお金が足りないという話もある。いい意味でメリハリというか、この道路はそこまで及びませんが、この道路は注力して頑

張りますというような、グリーンロードというか緑化重点道路みたいなのがあって、その部分は景観的にもちゃんと一定程度プロにも関わって綺麗にするし、それはちゃんと計測するとヒートアイランドに向けても凄く効果が出ていますみたいな事があって、そこはかなり重点的に人の関わりというかコミュニティの関わりも頑張るし、更にここは歩行者も自転車も気持ちよく通れるみたいな「この通り絶対いいよね」というところをきちんと決めていく。そういうふうになるとひょっとしたらパトロンが付かないかなとか、モダン通りは株式会社〇〇さんが守ってますみたいなものになるとなんかうまくいかないかなという思いがあります。そういったものがあると、ひょっとしたらなんとなく岡崎市に寄付している事業者さん、実際にあまりメリットはないかもしれないけれどちゃんと公表してもらって、この通りを〇〇会社さんのお陰なんだっていうアピールになるとか、そういう新しいビジネスになったらいいですね。民間事業者連携をそういう形でやるという夢はあると思います。

2.2 計画の目標指標について

【説明】

【質疑応答】

近藤委員：

花壇の話ばかりで申し訳ないのですが、指標が講習会参加人数と公園愛護運営会の活動日数、大きく分けてこの2つになっていくのですが、花壇活動はコンクールをやられている所とか追加されないのでしょうか。将来的にコミュニティガーデンにしろ、花壇造りに参加してもらう事を増やすのであれば団体を増やしていくとか、ここに関わっていく人達が今これだけいるということのカウントできない。これだと学ぶ場の位置づけが愛護運営会のみを感じてしまうのですけれど、講習会はどうしても単発で何人集めるで計画的に数えられるけど、日常活動は単発でみたいになって来るので、そういった普段の活動をうまく抑えられる方法はないかなと思いました。

事務局：

花壇関係で地域花壇を含めてやっていただいているのですが、参加者数だとかを指標にした際に正確に数値が拾えないのが実際のところですよ。

近藤委員：

実際の登録数も拾えないのですか？

事務局：

登録数でしたら拾えます。

三矢委員：

その花壇に何人が関わっているくらいはわかるわけですね。

事務局：

この花壇を町内会ですとか老人会で一応何人ってというような所は登録してありますが、実際どれくらいの方が関与されていたかはそこまでは把握できないと思います。そうすると愛護運営会でしたらまだ報告書とかで把握することができるんですね。

三矢委員：

地域花壇関係だと年次報告書のようなものがないってことですかね。

事務局：

花壇の状況などについては報告していただいています。ここをやっているとかが上手いかわなくてとかは把握は出来るのですが、その活動に参加している人数がのべ何人、何日とかまではなかなかちょっと厳しいかなと

近藤委員：

参加人数の把握というよりは、今後活動として広げていくつもりがあるのであれば、カウントとしないと存在自体が見えないと思います。たとえば人数が厳しければ、グループ数だけでも例えば10グループだったのを今後増やしていきたいだとか、さっきの駅前とかの人が集まる所の活動を増やしていくのであれば拠点をもっと増やしていくとか、そういうことですね。今のままだと、今後10年間でどうしたいかが見えてこない。今後こうしていきたいというのが、最初これくらいだったものが10年後こうなったのが見えるという形の目標が欲しい。何かいい指標があればと思いました。

今西委員長：

活動への登録者数とか対象としている場所の箇所数、あるいは面積だとか、そういったものは使えると思うんですね。P.7の①-1（緑づくりに関する講習会等の参加人数）は数値自体も出されてないですし、この文章では具体的に決まってないことくらいしかよくわからなかったんですが。団体数なのか登録者数なのか、対象の箇所数とか回数とか色々な捉え方、拾い方ができるわけですね。この先10年間何をやるか、やりたいかに対してどの項目を使えばいいか考えていけばいいと思います。

近藤委員：

そうですね。参加人数ですと、例えば今回の新型コロナウイルスでのように、私自身講習会自体が全くやれなかったら全然数値が出てこない事になってしまうというのもあるんですね。ただ、それをしてないからって緑が増えてないとか結果が良くなってないかということそうでは無いと思うので、もう少しこの計画の目標としてわかりやすいものを今後作った方が良いような気がします。

三矢委員：

公園愛護運営会の仕組み自体が現行の緑の基本計画の重点施策なのである程度クローズアップされているのはあるとして、一方で花壇みたいな事で市民の皆さんと関わりを持って緑化を進めている現場があるんですね。愛護運営会を拾うのであれば、もちろん別々にカウントとしないといけないと思うんですけど、花壇の件は花壇の件で拾ったらどうかなって思っていました。併せてそれを言い始めると、公園愛護会はどうかというのものもある、愛護会は愛護会で、岡崎市の6割の公園には愛護会があって、一生懸命草刈ったり公園を良くしようと頑張ってる皆さんが既にいる。これはちゃんと尊いものとしてもっと増やしたいよねという姿勢を出したらどうかなと。愛護運営会も花壇も愛護会も気になるし、どうでしょうかというところです。

今西委員長：

花と緑にかかわる人数などでトータルに見ていくような捉え方ですかね。

近藤委員：

花と緑にかかわっている活動、そういうものがどれくらいあってというのが全体として把握できるような指標があるとよいです。

事務局：

公園や緑に関して活動してくれている団体数、そういった活動してくれている方が増えるというのは緑が良くなっていくところにつながるというのは確かにその通りだと思います。漏れているところがあるといけないので、こちらは改めて考えさせていただきます、

今西委員長：

公園だけでなく河川や道路も含めて、幅広く活動を把握できるようにしてください。

三矢委員：

前にも言ったのですが実際地域に入っていって愛護運営会作りませんかという話をしていたら、その愛護会自体がつぶれちゃったみたいなことが実際ある。結局老人会が愛護会活動に携わっている場合が多いので、老人会自体が衰退傾向にあるとそもそも愛護会自体、いまの現況を維持するのもままならない数値かもしれない。だとするとそういう現実を受け止めつつ、どういう風にしたら公園の維持管理運営を賄えるだろう、そこに事業者さんや別の主体が関わって新しい担い手を掘り起こしていくのは大変だと思うけど、大事な事だということをちゃんと計画でうたっておいた方がいいかなって思います。

松本委員：

P.5の公園の人口カバー率について、これはぜひ入れていただきたいと思っているんです。モニタリング指標とした理由というのは悩ましいところなんですけど、この部分を基本的にはしっかり整備

したい。皆さんがアクセス出来る行政サービスとして、あるいはそういう位置づけとして整備していった結果として居住誘導区域の人口が増加したという考えかただってあるわけです。だから公園の働きを成果として評価しなければならない。結局全部独立じゃないんですね。色々なものが関係してくる総体として結果があるというのは行政としても OK でいいと思う。これは入れた方が僕はいいかなって思います。これに対して P.5 の 1-②は評価指標にしていますが、これはたとえば事業単位でソーラーパネル設置しても 1 というふうに考えるとするとこれはカウントしづらい。これこそモニタリングで、こういう風に整備しましたって結果を確認しておけばいいんじゃないかなって思います。

高取委員：

それぞれの基本目標のチェックとして、例えば市民が岡崎市の緑に対してもつイメージの評価、例えばどのくらい緑に対してアクセス性が増えたと思いますかとか、どれくらい公園に行ってみたくなりましたかとか、計画の成果として市民の緑に対する満足度がどう変わったのか、そういったところがアンケートなどで抑えられるといいのかなと思います。アンケートでそういう評価をしていくというのはいかがでしょうか

事務局：

毎年という訳ではないのですがアンケートですとかまたは岡崎市 e-モニター制度もありますので、今回もありました日常的に身近な公園があるとかですとか身の回りの緑が増えたかどうかですとかそういったところの意識の変化は追っていきたいと思っています。

高取委員：

例えば公園に対するもっと行ってみたくなったとか、街路樹に対する評価ですとか、基本目標の 4 つに対して具体化する形で、市民の意識変換の項目を作るっていうのはいかがですか

今西委員長：

指標について、例えば P.4 の②－1（市域全域を対象とした緑被地率）こういったものだとかは行政がめざす量的な目標なんですよ。こういう施設を作ったとか。でも下の②-2 は市民の方が感じる街づくりの成果としての目標です。こうした 2 つ目標があって量的な達成目標と成果の目標みたいな 2 つがある。そういう考え方で 4 つの目標それぞれ行政的な達成目標と市民の感じるような成果の目標 2 本立てで考えられた方がわかりやすいんじゃないかと。

松本委員：

基本的にはアウトカム指標、成果目標としてさっき公園の人口カバー率があって、これは先程言ったように公園の整備が要因なのかあるいは人口の増加が要因なのかわからないのですが、色々な結果こういった成果が出できたっていう事、それはそういう街の形になっていったし人口増加に向けた色々な政策の結果という事で、アウトカム指標として良いと思います。本来は基本目標に対してアウトカム指標が目標としてあるべきなんですね。一方で整備に対する目標これはアウトプット

指標です。どれだけ公園整備するか、施設としてかまどベンチを何個作るとか、あるいは街路樹延長とか活動を何回開催するとか、これはすべてアウトプット指標です。それはモニタリング対象で十分だと思う。結果それを市民がどう受け止めているかを見ていかないといけない。行政は頑張って整備して、量的な所は良くなっているのに全然評価してないみたいなどころがあるとしたらそこはちゃんと見ないといけない。市民の意見などはその時代時代によって評価って凄く大きく変わるので、ここは目標値にしないで良いと思う。なので、モニタリングで良いかなと思います。理想的にはアウトカム指標を目標値にして、モニタリングで整備量をアウトプット指標、あとはモニタリングとして市民意識を見ておくのもいいかな。ただこれら言うのはやさしくて、じゃあどんな指標にしてってぱっと頭に浮かばないからちょっと悩ましいところなんです。

今西委員長：

成果の部分と達成の部分、アウトカムとアウトプットは分けながら整理して目標を定めていくべきですね。

松本委員：

そうですね。それに加えて市民の意識も見てほしい。基本目標4つ全部に対してですね。

今西委員長：

目標設定の方、今の議論でだいたい整理はできたと思いますが、細かいところをちょっとだけ。P.4 の一番上、緑被地率なんですけど、この対応する基本目標1は主に保全なんですけど、緑被地率でやっちゃうと保全か創出なのかごちゃごちゃの中身に多分になってしまうのですね。保全の部分のちゃんと取り出していないといけないというところがある。

それから P.6 の官民連携事業の実施件数、これも何をもって官民連携にするのかという考え方を整理しないといけない。例えば指定管理、P-PFI は書いてありますが設置許可もそうだしどこまで捉えるのか。P-PFI+指定管理とかそういう部分を拾いたいならそれを明確に表現していないと思います。言ってみれば愛護会も NPO も、一般企業の方が支援してくれたりも官民連携なので。そこは整理してほしいと思います。

2.3 市民アンケート結果について

【説明】

【質疑応答】

今西委員長：

市民アンケート結果について、今回クロス集計の方も追加した上で残りの票含めて最終の結果が出ましたということです。ご意見がございましたらお聞かせいただければと思います。

松本委員：

複数回答について質問です。クロス集計するとういう表現にせざるをえないのはわからないのではないですが、例えば先程あった高めていく緑の機能の年齢回答別あり、それぞれ何パーセントって書いてありますがこの数字は正しくない数字というか、母数が回答数なのか回答者数なのかの部分非常にわかりづらくなっている。そこも読み方の注意をどこかに書いておいてもらいたい。普通は複数回答の場合、足して 100 パーセントにしないです（回答者数を母数とする）。本来は P.11 の（県データのような）書き方になるので。この部分はちょっときちんと整理して確認してもらったほうがいいと思います。

高取委員：

結果はすごく面白いものが出ていて興味深く拝見したんですが、ちょっとずれるかもしれないですけど最近思ったのがコロナの影響で。身近な緑に対する意識っていうのがこの期間にどうも上がってきているようで、たとえば自宅での栽培キットとか花や園芸用品を購入したっていう人が今までの 6 倍くらい増えているようなデータもあるようです。このアンケート自体は去年の 12 月前後のデータだと思うんですけど、今現在ではこの時より更に緑に関する意識は増えているのかなとは思っています。だからなんだっていう話なんですけど、おそらくもっと例えば身近な緑・公園ですとか街路樹ですとかそういう所に対して、皆さん遠くに行けなかったりするので、近隣の環境をよりまじまじと見るような期間があったのかなと思います。今例えばアンケートを取るとそこら辺がまた変わって出て来るのかなっていう。あんまり参考にならない意見なんですけどそういう風に感じました。是非またこういう結果をモニタリングしていただいて、松本先生も先程おっしゃっていましたが、結果として市民が変化があったのかいう所をモニタリングの形でしていただけたらと思います。

近藤委員：

今回のコロナウィルス流行の間というのはやはり公園が物凄く人が増えていて、遠くへ行くレジャーが無かった分、近くで、とにかく室内以外の所でという公園しか行く所がない状況にあったのかなという感じがします。何もない、本当に芝生と木があるだけで凄く居心地がいいっていうのを皆さん改めて感じられたのではないかなと思います。公園の有難味というか必要性っていう部分はこのアンケートを実施した時よりもかなり上がっているのではないのでしょうか。実感として思います。東京の公園もコロナのせいで閉鎖になったり使えない部分があったんですけどたまたま私のところの公園（豊洲ぐるり公園）は閉鎖にしないという方針だったので、取り敢えず来る人を受け入れる。そうすると近所の方以外にもやっぱり遠くからもみえたりしていたようです。今現在は自

肅は解除になっているんですけど、利用者数というのは前より増えているような気がします。遠くに行くのではなくても公園で遊ぶということが、お金もかからないし家族でのんびり過ごせるという事の価値は、かなり半年の間に実感として皆さん得られたような気がするので、ここは公園整備に関してももっと自信をもって、「生活環境として公園整備が必要なんだ」という事が皆さん納得した上で応援してもらえないかなと思います。

高取委員：

緑がある事の存在価値がすごく高まっていると思うんですね。例えば遊具とか賑わいの場所とかそれだけでなく、公園本来の癒しの効果といいますか、そこらへんが外に出られない中で皆さん公園の価値として凄く感じていた。それを踏まえると今後の公園整備の上でも納得してもらえないかな。その分植栽がしっかりして、木陰で休める公園ですとか、そういうものがもっと価値が高まったという気がします。

中川委員：

今のコロナで色々なものの価値観も変わっているので、今データがあるとその時期にとる必要があるのかな。また変わっていくかもしれないんですけど10年というのは非常に長いんですね。なのでアンケートは10年後も同じ質問するのかなってちょっと思ったんですよ。その時代時代で違いはあるけど、今大きな節目に来ているのは確かなので、ここで1回出来ると良いのかなってそんな印象がありました。

今西委員長：

確かに緑の基本計画策定委員会を始めてから案ができるまで、なんというか社会状況の変化が大きかった。社会状況の変化って項目を最初の内まとめていたのですが、さらにそこに大きな変化が起きてしまったというのがありますね。本来では絶対入れなきゃいけないような話が出てきてしまった。ただ、今から中身をガラッと変えてしまうのはちょっと難しいので。計画書の中のどこかで反映させていくべきかなと思います。

アンケート結果についてですが、先ほど事務局が課題とかいろいろお話頂きましたけども、それからアンケートの結果をどう計画に反映するのかというところを書き込んでいかないといけない。それぞれの項目のところにちゃんと反映すべきです。さらにそれが基本計画に反映してるよということがアンケート回答してくれた人たちに分かるように、ちゃんと計画に反映してくれたなという繋がりができないといけないと思います。でないとアンケートというのは往々、単なる資料で終わってしまうので勿体無い。要するに、色々な意見聞いたんだけど市民としては満足しているという項目、いやまだ足りないという項目が一目見てわかるように1枚でまとめる。さらにそれと計画の施策の繋がりがわかればいい。そのバックデータがこれ（資料-3）ですよということです。1枚で整理してほしいんです。で、それぞれの項目結果ではちゃんとコメントなり分析なりの概要をそれぞれ入れておく方がいいと思います。ちょっと手間なんですけど是非やっていただきたいな。アンケートは活かさないと勿体無いと思います。

三矢委員：

今事務局からも説明があったのですが、アンケート P.24 の 30 代から 50 代が実は公園に関わりたいと思っているという話があります。ここで 2 つ気にかかった事があって、1 つはこの傾向というのは毎回こういう傾向なのか、それとも近年の傾向なのか興味深いので、それは普通に知りたいです。もう一つは今委員長からあったように、30 代から 50 代がどうも公園に関わりたいたいよだというのが仮説としてあるとすると、やっぱりそこに向けて緑・公園に関わって下さいよって、30 代から 50 代に向けてちょっと味付けというか 30 代から 50 代の世代に刺さるような伝え方で仕掛けをやりたいみたいな、そういうアクションプランが出てくると凄く今回のアンケートとった意味があるんじゃないかと思います。

2 つ目は自由意見のところでは街路樹に対する詳細見てみると、ストレートな厳しい意見もあるし、なかには私関わりたいですって人も若干いるみたいな事があるので、今日の会議の中で街路とかストリートみたいなものに注目した方がいいよねっていう話題になったのが結構大きな気付きだったのかなって思っています。かたや都市計画やなんかの分野でストリートデザインとして、歩道をもっと居心地良く改良してみようよとか、若干車道削っても歩行者に優しい道づくりやろうよ、みたいな議論もあるので、そういった道づくりというかストリートデザインの世界と緑の話が上手く繋がっていて、さらに計画としても美しい、ヒートアイランド予防にも効果がでる、人々の繋がりにも効果がでる。複合的ないい感じの道づくりをちゃんと緑の観点からも頑張ろう、みたいに被せられるといいなと思いました。

今西委員長：

緑の基本計画で終わるんじゃなくてその先にも街路樹計画だったり公園の更新計画だったりがあるはずなんですね。そういった個別計画をここ 10 年で作ってそれを実行していきますよというのを示すのが緑の基本計画の役割だと思います。いきなり個別の事を書き始めると膨大な緑の基本計画になっちゃうので、ここについては緑の基本計画を掘り下げた計画をちゃんと作りますよ、それに基づいて岡崎市はやっていくんですよっていうのでいいと思う。そこは配慮していただければと思います。

事務局：

今回いただいたその課題や考え方のほうを一度こちらの方で整理して反映させていきたいと思えます。また次回よろしくお願い致します。次回は 7 月 30 日(木)15:00 から 2 時間程度とさせていただきます。